

6月7日(月) 昼
虚大学・農学部キャンパス

幼馴染「おはよー、こころ！農学部キャンパスに来るなんて珍しいね？」
こころ「おーす。朝のメール見た？」
幼馴染「メールじゃなくて一緒に登校しながら話すればいいのに。家も近いんだから。」
こころ「お前2コマからじゃん。オレ、1コマだったし。」
幼馴染「てへ。農学部はスローライフなのです。」
こころ「はいはい。で、兄貴分は？」
幼馴染「今日は午後から講義だからちょっと遅くなるよ、多分。」
こころ「さすが兄貴分の彼女。分かってらっしゃる。」
幼馴染「別に彼女の私じゃなくても分かるわよ？」
こころ「まあな、さてと、本題に入るんだが・・・」
兄貴分「おいおい、面白そーな話題なんだから俺抜きで話すなよな？」
幼馴染「ふっふ、早かったね？」
兄貴分「ああ、こころからのメールを見てすっ飛んできたぜ。」
こころ「家から？工学部キャンパスから？」
兄貴分「お前んち、母親さんのご飯、相変わらず旨いなー。」
こころ「俺んちは飯屋かつ！」
幼馴染「あ、ゴメン。私もごちそうになっちゃった。」
こころ「自分ちで食べてこいやっ！！」
幼馴染「せっかくこころが忘れた、母親さんのお弁当持ってきたのに。」
こころ「すいませんっ、いただきますっ！！」
兄貴分「んじゃまあ、幼馴染3人組が集まったところで、始めますか？」
幼馴染「こころからのお願い、草野球チームの設立、ね？」
兄貴分「くー！楽しそうじゃねえか！！ここんとこ暇してたんだよな！」
幼馴染「・・・彼女を前にその発言はどうなのかしら？」
兄貴分「え？・・・それとこれは別だよな？」
こころ「あーあ、兄貴分ったら悪いんだー？」
兄貴分「まさかの裏切り！？ちくしょー！お前らなんか嫌いだー！」
幼馴染「・・・あーあ、拗ねてどっか行っちゃったじゃない。」
こころ「オレの・・・相談は？」
幼馴染「あ、13時だから私もそろそろ3コマ行くね。」
こころ「はくじょーもの。」
幼馴染「たまには男らしく頑張る姿、見たいな。」
こころ「うるせー。ちっとは手伝え！」
幼馴染「はいはい、夜に兄貴分にも言っておくから、それじゃね。」
こころ「・・・行っちゃった。はぁ・・・どうしろっつーんだよ・・・。」

裏会へ